

	課題分析	授業改善策
国語	<p><b>【基礎的な言語知識】</b> ○語彙が少ない生徒が多い。</p> <p><b>【伝える力】</b> ○自分の考えを論理的に整理して伝える力が低い。</p>	<p><b>【基礎的な言語知識】</b> ○定期的な漢字ワークの提出・チェックを通して、継続的に生徒の基礎的な言語知識の向上を図る。 ○朝読書等、読書活動の推進を図る。</p> <p><b>【伝える力】</b> ○スピーチの授業を計画的に行い、他者に自分の考えを伝える時間を設けている。 ○試験に50文字程度の文章を書く設問を設け、自分の考えをまとめる機会を増やす。</p>
社会	<p><b>【知識・技能】</b> ○基本的知識が少しずつ身につけてきている反面、活用する力まで行き着く生徒と届かない生徒との差が大きい。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b> ○資料を見て考える力は個人差が大きい。加えて、多面的・多角的な見方ができず、1つの答えを探し、分からないと思考が止まってしまう生徒が多い。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○授業の振り返りを工夫しながら行う生徒が多くいる反面、文章を書くことに抵抗を感じる生徒もいる。</p>	<p><b>【知識・技能】</b> ○重要語句については、eライブラリなどを活用し、反復させるようにする。 ○授業内の取組の中で資料を読み取る場面を多く活用する。ICT機器も活用し、自分で資料を読み取り、つかむ力を伸ばす工夫を行う。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b> ○自分の考えをまとめる場面を多くつくり、表現する力を付ける。簡単な課題から難しい課題まで様々なパターンで提示できるようにする。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○授業で得た知識を基に、考察し、まとめられるような活動を、タブレットPCなどを活用し行うことで、自分で進んで取り組めるようにする。 ○授業の中で、時事に関する問題を取り上げることによって、社会事象に関心をもたせ、その問題に主体的に考える力を付けさせる。</p>
数学	<p><b>【知識・技能】</b> ○基本的な計算技能について、スピードが速く、精度も高い生徒が多い一方、なかなか手が進まない生徒もおり、生徒間での差が大きい。また、基本的な用語をきちんと理解していない生徒もいる。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ○思考力等を要する問題について、きちんと理解している生徒がいる一方、理解度が低い生徒も多い。</p>	<p><b>【知識・技能】</b> ○演習量を増やし、繰り返し学習することによって、基本的な計算技能の底上げを図る。また、生徒自身が学習内容を毎回振り返ることによって、自己修正を促す。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ○単に解き方の手順を教えるだけでなく、なぜそのような考えに至るか、どこからその発想が生まれるかを、生徒目線で問題解決の過程を伝えることで、生徒の思考力等を養う。</p>

理科	<p><b>【科学的思考】</b> ○「科学的に考える」能力が、身に付いていない生徒がいる。</p> <p><b>【理解】</b> ○個々の事象に対する理解が十分ではない生徒がいる。</p> <p><b>【基礎的事項】</b> ○正確な知識の定着が不足している生徒がいる。</p> <p><b>【文章表現能力】</b> ○文として成り立っていないものや、的外れな内容の文を書く生徒が多い。</p>	<p><b>【科学的思考】</b> ○科学的思考を促すような、授業展開・発問を行う。</p> <p><b>【理解】</b> ○平易な説明を行い、演示や視聴覚教材等を活用し、理解を促す。</p> <p><b>【基礎的事項】</b> ○基礎的事項を繰り返して強調し、内容の定着を促す。</p> <p><b>【文章表現能力】</b> ○正しい文章表現の指導を随時行う。</p>
音楽	<p><b>【興味・関心】</b> ○音楽活動の美しさの体験を通して、音や音楽への興味・関心を高めていく指導の工夫が必要である。</p> <p><b>【創意工夫】</b> ○多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高めていく指導が必要である。</p> <p><b>【達成感】</b> ○自己評価を工夫して達成感を味わう必要がある。 ○学校行事との関連を図りながら達成感をもたせていく指導の工夫が必要である。</p>	<p><b>主体的な活動】</b> ○多様な音楽に対する理解を深めさせるとともに、主体的に幅広く鑑賞し音楽的視野を広げられるよう指導を工夫する。</p> <p><b>【教材選択】</b> ○音楽に対して自己のイメージをもたせ、生徒が表現の技能を伸ばし創意工夫して表現できるような教材を精選する。</p> <p><b>【自己評価】</b> ○自己評価を行い、授業への取組を確認するとともに自分の実力をしっかりと把握し、向上心を育てる。</p>
美術	<p><b>【関心・意欲・態度】</b> ○授業への取組は大変良好であり落ち着いて集中し制作ができるが、自分の作品に対する評価が低いので自分の作品を多方向から鑑賞し、また生徒同士で鑑賞することで自己評価の向上を図る。</p> <p><b>【発想や構想力】</b> ○失敗を恐れず、創造的な表現活動に対しての意欲を高める。</p> <p><b>【創造的な技能】</b> ○根気よく、コツコツ丁寧に作業できる力を継続する。</p>	<p><b>【制作意欲と達成感の向上】</b> ○様々な芸術家の作品を鑑賞することを通し、自分ならではの表現を探求させ、自己肯定感を高めさせる。 ○生徒同士の作品鑑賞会を行い、互いの作品の良い面を伝え合う時間を設ける。</p> <p><b>【発想、構想力の向上】</b> ○短時間イメージトレーニング課題を定期的に行い描写的な思考をする時間を設ける。</p>

<p>保健体育</p>	<p><b>【知識・技能】</b> ○運動の特性や合理的に体を動かす方法を理解できていない生徒がいる。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ○学習した内容を他の場面でも関連付けて考えたり、選択できない生徒がいる。</p> <p><b>【学びに向かう力】</b> ○得意、苦手に関わらず、運動や各単元に対して前向きに捉えられない生徒がいる。</p>	<p><b>【知識・技能】</b> ○授業のねらいを明確にし、ICT 機器を取り入れて映像資料を有効に活用して理解させる。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ○各学習内容において、事例やポイントをわかりやすくして選ばせたり、仲間と話し合いながら検証して答えを導く機会をつくる。</p> <p><b>【学びに向かう力】</b> ○できることを増やす、仲間との関わり、スモールステップで達成感を味合わせるとともに、保健分野では、身近な生活に即した教材や発問を工夫する。</p>
<p>技術・家庭</p>	<p>《技術分野》</p> <p><b>【知識・技能】</b> ○技術に必要な知識・技能の習得を、実習を通して学ぶ必要がある。見方・考え方を養い、トレードオフの視点をもたせる必要がある。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ○基礎的・基本的な知識の定着を図る必要がある。目まぐるしい時代の変化に対応するため、その知識を基に、問題解決学習の実践、新しい発想を生み出そうとする姿勢を育む必要がある。</p> <p><b>【興味・関心】</b> ○各分野において、他教科との関連性をもたせ、生産・消費の視点や職業などのキャリア教育という観点から、関心意欲を高める必要がある。</p> <p>《家庭分野》</p> <p><b>【自らの衣生活・住生活に対する関心】</b> ○授業における聞く姿勢は大変良いが、自らの衣生活・住生活について保護者に依存していることも多く、関心に個人差がある。</p> <p><b>【実生活との結び付き】</b> ○衣生活・住生活において自ら工夫した経験が乏しく、学習内容と実生活の関連性を実感しにくい様子が見られる。</p>	<p>《技術分野》</p> <p><b>【目標の把握】</b> ○題材ごとの評価内容・方法を明確に提示し、授業のねらい・目標を理解させる。</p> <p><b>【教材選択】</b> ○生徒の技術的な興味・関心を理解した上で教材を精選する。</p> <p>○製作実習において、一つの作品を時間内に終わらせることのできる教材を選択し、作品を完成させた達成感を味わわせる。</p> <p><b>【学習の定着】</b> ○製作実習時の技能試験、題材終了時に確認テストを実施する。</p> <p>《家庭分野》</p> <p><b>【関心・意欲を高めるための工夫】</b> ○毎時の導入では生徒の身近なことに触れたり、話しやすい相手とディスカッションする時間を設けたりして、学習内容が入りやすいようにする。</p> <p>○ワークシート、視聴覚教材、ICT 機器の活用において工夫し、理解しやすい授業を工夫する。</p> <p><b>【実生活を題材にした授業の工夫】</b> ○自分自身の衣生活・住生活について授業を通してどのように変わったかを振り返る学習活動を行う。</p> <p>○シミュレーションゲームや製作活動を通して、学習内容を実生活に生かす見通しがもてるようにする。</p>

外国語 (英語)	<p><b>【知識・技能】</b></p> <p>○基礎基本の定着度が、個々の生徒で差が大きい。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>○身近な話題について表現するときに、既習の学習事項を結び付けて利用することがなかなかできない。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む姿勢】</b></p> <p>○ペアワークなどに、多くの生徒が意欲的に取り組む一方で、複雑な英作文などへの取り組みは意欲が高くない。</p>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <p>○単語テストなどの頻度を多くして、語彙の定着を計るなど、基礎の定着が高まるような工夫をする。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>○文法などの学習事項を、活用例をできるだけ多く提示したり、ALTとの会話に生かすことで、自分のものにするよう促す。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む姿勢】</b></p> <p>○簡単なものから難易度の高いものへのステップアップを工夫し、達成感を得られるように促す。</p>
-------------	---	---